

ヨーロッパ柔道連盟公認指導者資格制度・ 「The European Judo Union Coaching Awards Level 4 and 5」の指導を終えて

濱田初幸*

1. はじめに

2012年度から中学校保健体育実技において、武道の必修化が開始された。これに対して、世論は厳しい批判的な意見を多く寄せ物議を醸した。柔道による死亡事故が多く発生していることが報告され（内田，2010），必修化は時期尚早ではないかと批判的な意見が世論を騒がせたことは記憶に新しい。特に柔道を取り巻く環境整備がなされていないなどの問題点が指摘された中でも，重要な課題として「指導者不足」が挙げられた（濱田ら，2011）。

この対策の一環として，全日本柔道連盟は，2011年4月の理事会・評議会において，2013年度から新規に基づいて全日本柔道連盟公認指導者資格制度を完全実施することが決定した（木村，2011）。

これまでの我が国の指導者資格制度は，20歳以上で講道館柔道初段以上の有段者であれば，だれでもが指導者として公式に登録できる，非常に緩やかな規定であった。このことから，指導者の中には柔道経験が未熟で適切な指導法を知らないままに青少年を対象に指導をしていたケースも見られ，適正なレベルの指導力を有しているか否かに関する問題が生じ，指導者制度の在り方が事故の原因に繋がっているのではないかなどの意見も聞かされた。

そこで全日本柔道連盟は制度の見直しを検討した結果，新規資格制度においては，柔道段位，年齢などを基準に3段階の能力別区分を設け，講習会や審査試験を課すなど，これまでとは大きく異なった厳格な制度を新たに拵えたところである。

一方，世界の五大陸から構成されている国際柔道連盟（以下，IJF）の内，ヨーロッパ柔道連盟（以下，EJU）は，2005年にこれまで各国のみで認められていた指導者資格制度を全世界に共通した世界基準の資格制度を設立した。ヨーロッパのみを対象として制度ではなく，世界中の指導者を受け入れて養成しようとするもので，2005年に創設された。柔道発祥国である我が国が大きく出遅れていることが明かされた。

筆者はイギリス・ケンブリッジで開催された「The European Judo Union Coaching Awards Level 4 and 5」を受講している学生（各国のナショナルレベルの指導者・クラブ指導者等）を対象に講師として招聘され活動を行い，EJU指導者資格制度の一部授業を担当機会を得ることができた。

2. 目的・背景

EJUには50ヶ国の連盟が加盟しているが，国家間の指導者資格レベルにかなりの格差が見られた。これは指導者資格認定基準がヨーロッパ各国で異なることから生じた問題であることが判明した。そこで，EJUが中心となり，ヨーロッパ全土及び世界に共通した資格基準制度を設け，一定レベルの基準と技術知識の保証基準を確保することを目的として制定された。さらに豊富な知識，高い技能を有した優秀なコーチを輩出することがハイレベルな競技力向上，柔道の普及発展に繋がることを理念として設立された。

また，ヨーロッパの社会的背景に見られる，高等教育圏の統一化を図ろうとする「ボローニャ宣

*鹿屋体育大学スポーツ・武道実践科学系



写真1 The Village College Comberton の正門



写真3 イギリス柔道連盟強化委員長・ラスコーの指導



写真2 The Village College Comberton の柔道ホール



写真4 講習会責任者・ボブの講義

言 (The Bologna Declaration)」が設立されたことが強い影響を及ぼしている (館, 2010)。この制度は高等教育圏の国際通用性を高め、指導者資格基準の一定化、ディプロマ・サプリメントなどを目的として1955年に創設されたが、EJU もこれを受け、その理念に則り、欧州で統一化された資格制度を構築した背景がある。

3. 開催場所：

UK Cambridge Anglia Ruskin University,
The Village College Comberton Sport Hall

4. 開催期間：平成24年4月2日から4月13日

5. 国別受講者リスト：

参加国は、ベルギー1名、モルディブ1名、トルコ2名、オーストラリア1名、セルビア1名、イギリス3名、フィンランド1名、クロアチア3名、ナイジェリア1名、モーリシャス1名、ブラ



写真5 受講者たちと

ジル1名、ドイツ1名、アイルランドの13か国、18名(女性3名)の受講者であった。その内、3名がハイレベル5の資格制度に挑んでいた。受講生の平均段位は3段であった。

6. 指導者リスト：

Bob Challis (Leader), Mike Callan (International Association of Judo Researchers President), Envic Galea (General of the European Judo Union), Nuno Delagado (2000 Olympic Games medalist), Matt

濱田：ヨーロッパ柔道連盟公認指導者資格制度・「The European Judo Union Coaching Awards Level 4 and 5」の指導を終えて

Divall (Englanad Excel Coordinator), Kjell van Paridon (Exercise Psychology at Anglia Ruskin University), Daniel Iascau (Performance Director British Judo), Lisa Allan (The Judo manager for London 2012), Loretta Cusack (1982 World Judo Champion, Three times European Champion), Craig fallon (2005 Judo world champion), Maki Tsukada (2004 Olympic games champion), Hatsuyuki Hamada (1981 Asian Champion),

7. 講習会のタイムテーブルは、表1の通りであった。

8. 資格制度の概要

EJU 指導者資格制度は、IJF, EJU, アングリアラスキン大学、イギリス柔道連盟 (BJA) の共同連携により開催され、最終試験までに年間2回の講習会を2年間から4年半受講しなければならない。開催時期は、4月のイースター休暇中と7

月の夏期休暇中に定められ、1回の開講期間は2週間に渡る。1日の時間割は90分授業で4セッションが開講されている。発足時はバース大学を拠点として開催していたが、2010年から新たな学術パートナーとしてアングリアラスキン大学が選出され、本大学を拠点に開催されている。2008年には、インターネットでの遠隔学習 (Distance Learning) を採り入れ、自宅に居ても学習可能なレベル3のコースも設けられている (最終講義、試験は試験会場に出向かなければならない)。2012年秋から、最も難度の高いレベル6の資格制度が開設予定になっている。

レベル3取得者にはEJU公認指導者証明書が、レベル4取得者にはEJU公認柔道専門学位 (FdSc) が、レベル5取得者には学士号 (BSc) が、レベル6取得者には修士号 (MSc) が授与される。これまでの資格取得者は、レベル3が10名、レベル4が40名、レベル5が12名である。指導スタッフは上記に記述してあるが、技術講師として日本

表1 2012年4月開催：The EJU Coaching Awards Level 4 and 5: タイムテーブル

曜日 時間	月曜2	火曜3	水曜4	木曜5	金曜6	土・日	月曜9	火曜10	水曜11	木曜12	金曜13
0900-1030	開所式	国際的 技術法	青少年 育成法	種々の 学習方法	フィードバック 方法		競技における管理可能な要因と不可能な要因	柔道の 基本技術	到達目標 設定に関して	柔道の 基本技術	清掃・整理
1100-1230	柔道応用 教育法	国際的 技術法	ネルソン・マンデラ 基金について	アングリア・ラスキン 大学のシステム	根拠に基づいた コーチング		柔道の 基本技術	根拠に基づいた コーチング	優れたコーチ ングのための反省と 反映	柔道の 基本技術	根拠に基づいた 学習法
1330-1500	段階的 コーチング法	2012ロンドン オリンピックの 現状	種々の コーチング方法	柔道の 基本技術	個に応じた 学習方法		柔道の 基本技術	柔道の 基本技術	東海大学の 強化システム	コーチと選手 の関係について	評価
1530-1700	大学図書 利用について	得意技の 技術研究	基礎学習 方法の紹介	柔道の 基本技術	課題。レ ポート作成 方法		柔道の 基本技術	柔道の 基本技術	自習	柔道の 基本技術	
1700-1800		個別指導 時間	個別指導 時間		個別指導 時間		個別指導 時間	個別指導 時間	柔道の 基本技術	個別指導 時間	
夜会			乱取 (コンバート ン柔道クラブ)						乱取 (コンバート ン柔道クラブ)		

からも招聘され、これまでに井上康生（シドニー五輪金メダリスト）や中村兼三（アトランタ五輪金メダリスト）、塚田真紀（アテネ五輪金メダリスト）などが担当している。レベル4のカリキュラムを、表2に示す。

9. 講義内容

主催者側から依頼された筆者への講義内容は表に示した通りである（表3）。近年、EJUにおいては、柔道の形への関心が非常に高く、各地で競技大会が開催されている。今回の指導法にも、形を取り入れた技の解説依頼があった。単なる形の解説ではなく、基本となる形を応用して、実践の中でどのように施技し、どの間合い・タイミングで仕掛けるのが良いのか、形を基盤にした技解説の依頼から、形重視の傾向や形技術から指導者の資質向上を図っていることが窺えた。さらに、固技に対する関心度も非常に高く、高度な応用技術を有していることが窺えた。しかしながら、固技の基本動作である、腹臥前進、エビなどの体の移動、脚回しなどの動作には課題が見られた。

10. まとめ

我が国では、2012年度から始まる武道の必修化によって、指導者資格制度の在り方を見直す動きが見られたが、ヨーロッパにおいては、早くからこの問題に着手し、大学などの関連機関と共同連携を図り、体系化、整備された指導者養成システムが構築されていた。特にフランス柔道連盟は、指導者資格制度を国家試験として位置付け、指導力の質の保証や経済的な安定を確保している（濱田, 2006）。

これらのことから、我が国の指導者資格制度の在り方が立ち後れていることが浮き彫りになった。EJUのこのシステムは、懸案となっている武道の必修化に向けた怪我防止、安全な柔道授業作りにも参考に資するものと考えられる。我が国とEJUには学校制度や慣習の差異はあっても、EJU指導者資格制度から学ばなければならない多く

表2 レベル4のカリキュラム

柔道応用教育学	柔道のための筋力強化とコンデショニング
スポーツ生理学	柔道戦術分析法
柔道運動生理学	柔道タレント発掘法
スポーツ運動心理学	スポーツ発達法
柔道動作分析法	スポーツコーチングのための研究方法
スポーツ企画	格闘技における心理プロファイリング
柔道基本技術法	

表3 筆者の主な講義内容

月・日	時 間	内 容
4・9	15:30-17:00	打ち込み指導法
4・10	9:00-10:30	形を用いた投技の指導法
〃	13:30-15:00	得意技（投技）の解説
〃	15:30-17:00	得意技（固技）の解説
4・12	15:30-17:00	女子選手の指導法

の知見が包摂されていることは明確である。EJUの国際大会における活躍は著しいものがあるが、その背景には、我が国には見られない様々取り組みや制度を考案し、工夫改善させていることを認識しなければならない。競技力の向上を目指しながらも、柔道環境をどう整えていくのかを視野に入れていかなければ、世界の柔道はあらゆる面で我が国に追いつき、追い越してしまうかも知れない。柔道のグローバル化の加速は留まることを知らないかのようでもある。

ボローニャ宣言に示される、グローバル・モデルとして世界化を視野に入れていることを考えるなら、指導者資格制度もヨーロッパの枠を超えて、さらに広範な範囲に影響を及ぼし、この制度の世界化を見据えていることも予測される。前例に見られるIJF・審判員制度が世界化された事実が存在することを前提とするなら熟考しなければならない。あらゆる面で変容の激しいEJUの動向を今後も注視し、情報収集を継続していく必要がある。怠れば後塵を拝することが危惧される。

参考文献

- 1) 濱田初幸（2006）, 柔道大国・フランスの実態を
探る, 鹿屋体育大学学術研究紀要: 34. pp.49-62.
- 2) 濱田初幸, 前阪茂樹, 川西正志, 安藤太軌, 北村

- 尚浩（2011），体育専攻学生が期待する中学校における武道必修化による教育効果：武道を専門とする学生に着目して，鹿屋体育大学学術研究紀要：43. pp.1-9.
- 3）木村昌彦（2011），全日本柔道連盟指導者資格制度導入について，柔道：82.8. pp.100-104.
- 4）館昭（2010），ボローニャ・プロセスの意義に関する考察－ヨーロッパ高等教育圏形成プロセスの提起するもの－，名古屋高等教育研究：10. pp.161-180.
- 5）内田良（2011），柔道事故と頭部外傷：学校管理下の死亡事例110件からのフィードバック，愛知教育大学教育創造開発機構紀要：1. pp.95-103.